

解 説

——胡・索 両氏の中国文論文について——

中 根 千 枝

ここに掲載された2つの中国文論文の著者、胡起望・索文清両氏は、北京にある中央民族学院の講師で、1982年12月から1984年3月まで東洋文化研究所の外国人研究員として来日され、1983年度には本官が主任をつとめる、「アジア諸社会における少数民族の伝統的社会組織とその変容過程」班の研究協力者として研究を担当されており、その成果の一部がここに掲載されたものである。

中国では1950年代から現在にいたるまで、私たちの想像をはるかにこえる大量の少数民族調査が行われてきており、最近その成果が次第に出版されてきているが、具体的な実態調査のありようや、現地の実状は、胡氏や索氏のような中国の民族学者との直接の交流をとおして、はじめて知ることができる。その意味で、豊富な実態調査の経験と資料をもたれている両氏の協力は、私たちにあって貴重である。

両氏の属する中央民族学院は、中国の少数民族の子弟ならびに少数民族を専攻する学生を対象とした大学である。両氏は共にこの学院の出身者で、卒業後ひきつづいて同学院で研究・教育に従事されてきた。胡氏は1952—1956年、少数民族語文系に学び、ついで歴史系民族学研究班に属し、索氏は1956—1961年、歴史系で中国民族史を専攻し、ひきつづき同系に属し、両氏とも1972年より同学院民族研究所の所属となって今日に到っている。両氏は1958年以来、下記のように数度にわたり少数民族の実態調査に従事されてきている。

胡起望氏

1958年、広東連南瑶族自治県の八排瑶；1959—1960年、広西田東、凌云、西林、金秀；湖南江華等の県の壮族、背篋瑶、盘瑶；1978年、広西西部10県の壮族土官、土司制度；1979年、広西桂平および湖南10県の過山瑶、頂板瑶、独角瑶、八排瑶、花瑶；1980—1982年、四回にわたって広西大瑶山を調査。盘瑶を中心として茶山瑶・花藍瑶・山子瑶・坳瑶など。

索文清氏

1958—1959年、雲南省耿馬^{アイ}傣族佤族自治県、徳宏傣族景頗族自治州の傣族（とくに土司制度を中心に）；1959—1960年、雲南省紅河^{ハニ}哈尼族彝族自治州紅河元陽両県の哈尼族の社会経済と宗教；1964年、四川省阿壩^{チベット}藏族自治州の藏族、同省康定県の藏族の土司制度；1973—1974年、西藏自治区の拉薩、米林、錯那諸県の藏族ならびに^{ロツバ}珞巴族、^{メンバ}門巴族；1980年、甘肅省夏河県ラト楞寺、青海省湟中県塔爾寺；1981年、雲南省西双^{シーサンペンナ}版纳、景洪、勐海県の哈尼族。

両氏のこれらの調査はいずれも中国における少数民族研究の一貫をなすもので、中央民族学院民族研究所や中国社会科学院民族研究所の費孝通教授をはじめ諸先輩教授たちと共に行ったものが多い。両氏の担当はいずれも社会歴史調査で、その意味で私たち社会人類学者にとって、興味深い資料、情報をもたれている。これら調査が行われた時期は解放にともなう少数民族の社会が大きく変わりつつあるときで、彼らの伝統的な社会組織、習慣などを知ることでできる最後の時期であったといえよう。両氏の論文を読むと明らかのように、解放後の変化は驚くほどである。

ここに掲げられた論文で代表されるように、胡氏は主として広西を中心とする南方の少数民族を専門としており、索氏はチベットを中心とする地域を専門としている。因みに1981年に人民出版社より出た中国の少数民族の集大成である『中国少数民族』において、胡氏は“苗族”“瑶族”“怒族”“独龍族”“仡佬族”“水族”の諸項を、索氏は“門巴族”と“珞巴族”を担当

している。同様に近く出版される『民族詞典』(上海辞書出版社)においては、胡氏は中東南部の少数民族、索氏は西南部の少数民族の編集担当者である。

中国の民族学研究は当然のことながら文献による歴史研究をあわせ行うのが常で、両氏の下記の諸著作にもその特色がよくあらわれている。胡起望氏には、『瑶族簡史』(共著、1983年、広西民族出版社)、『中国少数民族歴史人物志』(謝啓晃との共著、1983年、民族出版社)、『盤村瑶族』(范宏貴との共著、1984年、民族出版社)、『瑶族過山榜選編』(黄鈺、徐仁瑶、李子賢との共編、1984年、湖南人民出版社)があり、索文清氏には『藏族史要』(王輔仁との共著、1981年、四川民族出版社)、『藏族史料集』I, II(陳燮章、陳乃文との共編、1982年、1983年、四川民族出版社)、『西藏社会的飛躍』(王輔仁との共著、1979年、西藏人民出版社)がある。その他両氏の主要論文は次の如くである。

胡起望：「広西少数民族対祖国発展的貢献」(莫俊卿と共著)『中国少数民族関係論文集』1982年、民族出版社；「明史広西土司傳校補」『民族研究』1979年2月；「乾嘉苗民起義参加人供單簡述」『貴州民族研究』1980年3月；「鄺露和他的“赤雅”」『民族研究』1981年2月；「蔡元培与民族学」『民族学研究』第1輯、1981年、民族出版社；「瑶族過山榜析」(徐仁瑶と共著)『中央民族学院学報』1981年2月；「從民族学資料看数量觀念的発展」『民族研究』1982年1月；「瑶医簡述」『中央民族学院学報』1983年1月。

索文清：「西藏米林縣南伊鄉珞巴族社会調査」『中央民族学院学報』1975年2月；「社会主义新西藏在前进」(王輔仁と共著)『中央民族学院学報』1976年3～4月；「18世紀初到20世紀西藏人民抗英斗争述略」『中央民族学院学報』1981年3月；「1904年西藏人民的抗英斗争」『歴史教学』1981年12月；「紅河縣哈尼族社会歴史調査報告」(共著)『雲南省哈尼族社会歴史調査報告』1982年、雲南人民出版社。